

総務教育常任委員会資料

(令和2年8月21日)

【項目】

ページ

- 1 とっとりSDGs若者ネットワークの結成について
【新時代・SDGs推進課】・・・1
- 2 『鳥取県の将来ビジョン』の改訂素案に係るパブリックコメントの開始について
【新時代・SDGs推進課】・・・3
- 3 第2回鳥取県コロナに打ち克つ新しい県民生活推進会議の開催結果について
【新時代・SDGs推進課】・・・7
- 4 第11回中海会議の開催結果について
【総合統括課】・・・別冊
- 5 令和2年度山陰両県知事会議の開催結果について
【総合統括課】・・・別冊

令和新時代創造本部

とっとり SDGs 若者ネットワークの結成について

令和2年8月21日
新時代・SDGs 推進課

持続可能な社会の担い手となる若者により、SDGs の実践に繋がる調査や活動を行う「とっとり SDGs 若者ネットワーク」について、結成式及びキックオフミーティングを以下のとおり開催し、活動をスタートしました。

- 1 日時 令和2年8月1日(土) 午後2時から4時まで
- 2 会場 鳥取県庁 第3応接室
※メンバーは原則、自宅等から Web 会議形式で参加
(自宅等での通信が難しいメンバーのみ、会場から参加)
- 3 出席者 知事、とっとり SDGs 若者ネットワークメンバー 11名(3名欠席)
※メンバー：高校生4名、大学生5名、社会人5名 計14名
- 4 次第 <第1部 結成式>
・参加メンバーへの知事からの激励
・参加メンバー自己紹介
<第2部 キックオフミーティング>
・参加メンバー同士による意見交換(取組紹介、関心のあるテーマ等)
- 5 メンバーからの意見〔抜粋〕

活動テーマ案	具体的な取組例	関連する SDGs のゴール
海洋プラスチックによる海洋汚染を防ぐ活動	極力プラスチックを使わない日常生活の実践や普及啓発を行う。	12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを 守ろう
SDGs 教育等、幅広い世代に対する普及啓発活動	絵本を使ったこども向けの SDGs 学習の推進、SDGs に関する教育を受けていない大人向けの啓発を行う。	4 質の高い教育を みんなに 17 パートナーシップで 目標を達成しよう
企業の SDGs への主体的な取組促進(取組度合いの「見える化」)	企業が SDGs 取組度合いを手軽に測れるアプリの開発・普及により、企業の主体的な取組を促進する。	8 働きがいも 経済成長も 17 パートナーシップで 目標を達成しよう
コロナ禍における生活様式を SDGs に取り込んだ活動	Web 会議・授業の普及、手洗い・うがいの習慣づけなどを SDGs のゴールを意識して実践する。	3 すべての人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに

※これら意見を参考に、第2回ミーティング(8月下旬で調整中)で活動テーマを選定予定。

6 今後のスケジュール(予定)

- 令和2年7月中旬 (メンバー公募)
- 8月1日 結成式・キックオフミーティング
- 下旬 第2回ミーティング
※活動テーマ選定、活動の方向性を検討
- 以降 テーマごとに具体的取組を開始、
適宜ミーティングを実施
活動成果報告会を開催



⇒裏面につづく(メンバー一覧等)

7 メンバー一覧 (順不同)

NO	エリア	氏名	所属等	NO	エリア	氏名	所属等
1	東部	網田 かのこ	青翔開智高等部	8	東部	村田 浩一	鳥取商工会議所青年部
2	東部	福田 晃己	青翔開智高等部	9	東部	田中 信也	鳥取青年会議所
3	東部	原田 拓弥	鳥取大学	10	東部	村田 千洋	鳥取県社会福祉協議会
4	東部	畠山 神紀	鳥取大学	11	中部	松田 智咲	倉吉東高等学校
5	東部	森田 恒志郎	鳥取大学地域学部	12	中部	山崎 みさ	倉吉東高等学校
6	東部	武内 あや菜	公立鳥取環境大学	13	西部	山城 しんいち	米子商工会議所青年部
7	東部	西ツ橋 あやお	公立鳥取環境大学	14	西部	地頭 まさたけ	米子青年会議所

<参考>

【SDGs (エスディージーズ) : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)】

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成される2030年を年限とした国際目標。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



『鳥取県の将来ビジョン』の改訂素案に係るパブリックコメントの開始について

令和2年8月21日
新時代・SDGs推進課

『鳥取県の将来ビジョン』の対象期間が終了したことから、県民や県議会の意見を伺いながら、2030（令和12）年度までの概ね10年間を同期間として『鳥取県の将来ビジョン』の改訂に向けて検討を進めており、7月19日に、「鳥取県パートナー県政推進会議」を開催し、委員からの意見を反映させて改訂素案を作成したところです。

については、多くの県民に「鳥取県の将来ビジョン」素案に対する意見を伺うため、パブリックコメントを下記のとおり開始します。

記

- 1 募集期間 令和2年8月21日（金）から9月15日（火）まで
- 2 応募方法 郵送、ファクシミリ、電子メール、ホームページの応募フォーム、意見箱（県庁県民参画協働課、各総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局、東部・八頭庁舎及び県立図書館に設置）、市町村窓口
- 3 募集内容 『鳥取県の将来ビジョン』の改訂素案について、広く意見を募集します。
- 4 今後のスケジュール
8月 パブリックコメント開始
10月 常任委員会でビジョン改訂案を報告、ビジョン公表

5. 将来ビジョンの概要

(1) 将来ビジョンの性格

- ・鳥取県の概ね10年後の姿を県民と共有し県政運営の基本となるもの。
- ・県民、NPO、住民団体、企業、大学、市町村などの様々な主体と協働・連携して地域の持続可能な発展を実現していくための共通の指針となるもの。
- ・毎年度の予算編成時に具体の施策、個別の事業を県民とともに作り上げていくための指針となるもの。

(2) 将来ビジョン策定の視点と背景

- ・新型コロナウイルス感染症拡大後の社会変化
- ・地球温暖化と気候変動の状況、自然災害のリスクの高まり
- ・デジタル技術の飛躍的進化による変革、Society5.0の推進
- ・人口減少と少子高齢化の進行
- ・SDGs（持続可能な開発目標）
- ・さらなる高速交通網の充実

(3) 改訂の方針

- ・2008（平成20）年に策定した将来ビジョンの基本的な考え方を継承しつつ、社会の変容や先端技術の進展とともに、先端技術で代替できない豊かな自然や人々の絆など、今後も変わらない本県の強みを踏まえたものとする。
- ・今年3月にSDGsの理念を盛り込み策定した「鳥取県令和新时代創生戦略」との整合を図る。

(4) 鳥取県パートナー県政推進会議における主な意見の反映状況

意見	「2030年の鳥取県の姿」への反映状況
星空舞などを世界のマーケットにブランディングすべき	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然と先人の努力に育まれた梨、スイカ、和牛、カニなど世界に通じるブランド力を持った農林水産物が次々と生まれ、農林水産業の所得の向上につながっている。 ・安全・安心で付加価値の高い農林水産物が県内外や世界に向けて発信され、輸出が拡大している。 ・和牛ブランドの産地として世界的に有名になっている。 【「1 ひらく（4）」に反映】
若者世代が地域と関わっていくべき	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりを自発的に行う意識や環境が定着し、県民一人ひとりやNPO、住民団体が積極的に地域活動に関与している。 ・子どもたちが鳥取県に愛着と誇りを持ち、ふるさと鳥取をさらに継承・発展させようとする意欲や態度が育成されている。 【「2 つなげる（1）」、「6 育む（3）」に反映】

鳥取県の将来ビジョン(令和2年改訂)[素案]の概要

改訂の趣旨

- ・2008(平成20)年に策定した将来ビジョンの基本的な考え方を継承しつつ、新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変容や、AIやロボットなどの先端技術の進展とともに、先端技術で代替できない豊かな自然や人々の絆など、今後も変わらない本県の強みを踏まえた、2030(令和12)年における鳥取県の姿(持続可能な地域)を示すため、改訂するものです。

将来ビジョンの性格

- ・鳥取県のおおむね10年後の姿を県民の皆様と共有し、県政運営の基本となるものです。
- ・県民、NPO、住民団体、企業、大学、市町村などの様々な主体と協働・連携して、地域の持続的な発展を実現していくための共通の指針となるものです。
- ・毎年度の予算編成時に具体の施策、個別の事業を県民の皆様とともに作り上げていくための指針となるものです。
- ・令和2年3月にSDGsの理念を盛り込み策定した「鳥取県令和新時代創生戦略」との整合を図るとともに、具体的な施策を示した同戦略の重要業績評価指標(KPI)を指標として活用します。

時代の流れと社会の変化

① 新型コロナウイルス感染症拡大後の社会変化

密閉、密集、密接を避けた日常生活や働き方が求められることで、リモートワーク、オンライン会議などが普及、非接触型の需要に対応した新しいビジネスが生まれるとともに、安全・安心を求めた地方への移住希望、サプライチェーンの国内回帰や地方都市への企業の機能移転等の動きの高まりがみられます。

② SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)

SDGsは、2015(平成27)年9月の国連サミットにおいて採択された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指す2030(令和12)年に向けた国際目標です。本県でも、県民をはじめ市町村、企業、NPO、大学などとのパートナーシップを活かし、オール鳥取で持続可能な地域社会の実現に向けて取り組みを開始しています。

③ デジタル技術の飛躍的進化による変革、Society5.0(※)の推進

今日、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などの先端技術が急速に進展しており、本県では、官民が連携して、『鳥取県版Society5.0』の実現を目指しています。

④ 人口減少・少子高齢化の進行

2030(令和12)年の本県の人口は、2019(令和元)年から4万人程度減少し、65歳以上の高齢化率は約35%となる見込みです。子育て支援や移住定住の促進など、人口の自然減・社会減対策を同時に進め、人口減少に歯止めをかけながら、地域の活力を持続させていくことが必要です。

⑤ 地球温暖化と気候変動の状況、自然災害のリスクの高まり

近年、地球温暖化が進み、気候変動に伴う豪雨の多発など自然災害のリスクが高まっています。本県では気候変動を緩和するため、2030(令和12)年の温室効果ガスの排出量を2013(平成25)年度比で40%削減、2050(令和32)年には実質排出ゼロを目指しています。

⑥ さらなる高速交通網の充実

山陰道(北条道路)が2026(令和8)年度に供用開始される予定であり、2030(令和12)年に向けて県内移動がさらに便利になります。

※Society5.0:サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。膨大なビッグデータをAIが解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでにできなかった新たな価値や産業が社会にもたらされることとなります。

2030年の鳥取県の姿

【基本理念】「活力 あんしん 鳥取県」～心豊かな充実生活をめざして

基本理念の実現のために、鳥取県の2030年の姿を次の6つの視点で描きます。

1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく

- (1) 時代の変化に応じ新たな需要を獲得できる産業が創出（ニューノーマル型ビジネス）
- (2) 県内企業がITやロボット等の先端技術を使いこなし国内外で活躍（デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進）
- (3) 場所や時間にとらわれない働き方が実現（テレワーク、兼業・副業、ワーケーション等）
- (4) 農林水産物のブランド確立と多様な担い手が活躍（スマート農林水産業の推進）
- (5) 国内外の旅行者が増加するとともに、多様な分野の海外交流が進展

2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る

- (1) 県民、市町村、企業、NPO等との協働により持続可能な地域が実現
- (2) 移住定住（若者のIJUターン等）や関係人口が増加
- (3) 住民が安全・安心に暮らし続けられる中山間地域が形成
- (4) 魅力があふれ人が集い、にぎわいのある中心市街地が形成
- (5) 高速道路などの高速交通網や物流拠点が充実（高速道路のミッシングリンクの解消）
- (6) 超高速情報通信網が充実し、ICTの高度活用により産業や生活の質が向上

3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ

- (1) 新型コロナウイルスなどの新たな感染症に対応する体制が確立
- (2) 循環型社会・低炭素社会が確立（プラスチックごみ・食品ロスの削減、温室効果ガスの削減等）
- (3) 人と自然が共生し、美しく豊かな自然が継承（生物多様性の維持）
- (4) 先端技術を活用した医療、地域支援、健康づくりの実践で健康寿命が延伸（遠隔医療、フレイル予防、認知症予防等）
- (5) 地域ぐるみの活動とIoT等の活用や生活空間の環境整備により、日常生活の安全が確保
- (6) 災害に強い県土の形成が進み、防災・危機管理対策が向上

4 楽しむ いきいきと楽しみながら充実した生活を送る

- (1) 豊かな自然、食、文化、歴史、芸術を知り楽しむことができる鳥取
- (2) ワーク・ライフ・バランスが充実し、活力ある生活が実現
- (3) いつでもどこでも誰でもスポーツを楽しめる環境が実現
- (4) 誰もが学び、主体的にキャリアアップを図る機会が充実

5 支え合う お互いを認め、尊重して、支え合う

- (1) 多様性を互いに認め、支え合う共生社会（多文化共生、マイノリティ）
- (2) 家庭・地域・職場で心豊かに暮らせる男女共同参画社会
- (3) 障がい者・高齢者がいきいきと暮らす地域社会
- (4) DVや児童虐待など支援の必要な方が生活しやすい環境が整備

6 育む 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む

- (1) 地域や職場との連携などにより、安心して子育てできる環境が進展
- (2) 高等教育機関等が県内産業界等と連携し、地域が求める人材を輩出
- (3) 子どもたちの地域への愛着と誇りが醸成（ふるさとキャリア教育の推進）
- (4) 社会の変化に対応できる力を身につけた人材を育成（主体的・対話的で深い学びの推進、ICT活用教育）

2030年に向けた「鳥取県の将来ビジョン」に対する ご意見をお寄せください！

2008年に策定した「鳥取県の将来ビジョン」について、策定から概ね10年が経過したことから改訂することとしました。



「将来ビジョン」とは…

- ・鳥取県の概ね10年後の将来の姿を県民の皆様と共有し、今後の県政運営の基本となるもの。
- ・県民、NPO、住民団体や地域活動を行う者、団体、企業、大学、市町村等の様々な主体と協働・連携して地域の持続的な発展を目指していくための共通の指針となるもの。
- ・毎年度の予算編成時に具体的な施策、個別の事業を県民の皆様とともに作り上げていくための指針となるもの。

募集内容

○「鳥取県の将来ビジョン(令和2年改訂)素案」に対するご意見

【鳥取県の将来ビジョン(令和2年改訂)素案の閲覧方法】

- ・県庁新時代・SDGs推進課のホームページからダウンロードできるほか、県庁県民参画協働課、各総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局、東部・八頭庁舎、県立図書館および市町村役場窓口でも閲覧できます。

ホームページアドレス：<https://www.pref.tottori.lg.jp/293216.htm>

- ・郵送をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。



鳥取県の将来ビジョン(令和2年改訂)素案の概要 (詳細は別添のとおり)

2008(平成20)年に策定した将来ビジョンの基本的な考え方を継承しつつ、新型コロナウイルス感染症拡大などによる社会の変容や、AI、ロボットなどの先端技術の進展とともに、先端技術で代替できない豊かな自然や人々の絆など、今後も変わらない本県の強みを踏まえた、2030(令和12)年における鳥取県の姿を示すため、改訂するものです。

<基本理念> 「活力 あんしん 鳥取県」 ～心豊かな充実生活をめざして

- <6つの視点>
- | | |
|--------|-----------------------------|
| 1 ひらく | 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく |
| 2 つなげる | 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る |
| 3 守る | 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ |
| 4 楽しむ | いきいきと楽しみながら充実した生活を送る |
| 5 支え合う | お互いを認め、尊重して、支え合う |
| 6 育む | 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む |

応募期間

令和2年8月21日(金)から9月15日(火)まで

応募方法

- ・郵送、ファクシミリ、電子メール、ホームページの応募フォームでお寄せいただくか、県庁県民参画協働課、各総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局、東部・八頭庁舎及び県立図書館に設置している意見箱へ投函してください。また、市町村窓口でも提出できます。
- ・提出される様式は自由です。(このチラシの裏面もご利用いただけます。)

提出・問い合わせ先

鳥取県令和新時代創造本部政策戦略監 新時代・SDGs推進課

〒680-8570 (郵便番号のみで届きます。)

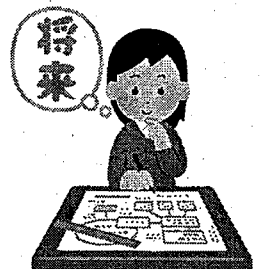
電話：0857-26-7093

ファクシミリ：0857-26-8111

電子メール：sdgs@pref.tottori.lg.jp

結果の公表

いただいたご意見への対応については、後日、とりまとめてホームページ等で公表します。



第2回鳥取県コロナに打ち克つ新しい県民生活推進会議の開催結果について

令和2年8月21日
新時代・SDGs推進課

新型コロナウイルス感染症を克服するための「新しい県民生活」の定着や県内の需要喚起に向けた取組を官民挙げて展開するため設置した「鳥取県コロナに打ち克つ新しい県民生活推進会議」を開催しましたので、開催概要を報告します。

- 1 開催日 令和2年8月3日(月)
- 2 出席者 経済、産業、福祉保健、教育、県民、行政の各団体代表者及び有識者
- 3 議題 県内の新型コロナウイルス感染症の現状
県の取組等に関する説明
- 4 団体・有識者からの主な意見と関係部局の主な対応
【クラスター対策条例について】
 - 店名公表
 - ・入店状況がきちっと管理されていれば店名を公表しなくて良いのではないかと。(県観光連盟)
 - ・協賛店や認証店の登録の有無に関わらず同じ扱いで良いのか検討すべき。利用者の責務も入れるべき。(県生活衛生営業指導センター)
 - ・誹謗中傷について、警察の生活安全相談窓口の周知をすべき。(県旅館ホテル生活衛生同業組合)
 - 【その他の取組について】
 - 教育関係
 - ・陽性者が出た学校に対するメンタル面のフォローをきちっとしてほしい。(県看護協会)
⇒スクールカウンセラー等によりフォローを行っていく。
 - ・学校で陽性者が出た場合のPCR検査を行う範囲などの指針が必要。(県PTA協議会)
⇒PCR検査を行う範囲について関係機関と調整中。
 - 事業所関係
 - ・事業所で陽性者が発生した場合の指針が必要。(県生活衛生営業指導センター、県商工会連合会)
⇒商工団体を通じた配布チラシや県ホームページで周知を実施済み。今後、セミナーを開催予定。
 - ・事業所で従業員等に発生した場合のPCR検査について行政検査の対象範囲、民間で検査可能な場所などの周知をしてほしい。(県生活衛生営業指導センター)
 - ・テイクアウトに取り組んでいるが、感染予防対策と食中毒対策の両立を図ることができる指針を示してほしい。(県食品衛生協会)
⇒県で作成したテイクアウトの際の食中毒対策の事業者向け注意事項の周知・啓発を図っていく。
 - ・感染防止対策に加え来年6月に開始されるHACCP対応も必要なので相談窓口を設けてほしい。(県食品衛生協会)
⇒くらしの安心推進課及び中部・西部の生活環境局が相談窓口であり周知を行っていく。
 - その他
 - ・道の駅のゴミ箱に捨てられている使用済みマスクの適切な処理の呼びかけが必要。(町村会)
 - ・県民が前向きになれる、安心できるメッセージを発信してほしい。(県看護協会)
- 【有識者から事業者への感染拡大防止対策の助言】
 - ・三密回避、マスク着用、手洗い励行に加え、風の出口を意識した常時の換気と頻繁な拭き掃除を徹底していただきたい。(鳥取大学景山教授)

鳥取県コロナに打ち克つ新しい県民生活推進会議出席者名簿

(敬称略)

分野	団体	職名	氏名	備考
経済	鳥取県商工会議所連合会	会長	児嶋 祥悟	
経済	鳥取県商工会連合会	会長	河毛 寛	
経済	鳥取県中小企業団体中央会	会長	谷口 譲二	
産業	公益社団法人 鳥取県観光連盟	会長	中島 守	代理出席 副会長 小谷 文夫
産業	鳥取県農業協同組合中央会	専務理事	谷垣 重彦	欠席
産業	公益財団法人 鳥取県生活衛生営業指導センター	事務局長	小畑 正一	
産業	鳥取県旅館ホテル生活衛生同業組合	専務理事	小谷 文夫	
産業	鳥取県飲食生活衛生同業組合	女性部長	宍道 真理子	欠席
産業	一般社団法人 鳥取県食品衛生協会	会長	望月 進	
福祉保健	社会福祉法人 こうほうえん	理事長	廣江 晃	※西部総合事務所から出席
福祉保健	公益社団法人 鳥取県医師会	理事	秋藤 洋一	代理出席 事務局長 谷口 直樹
福祉保健	公益社団法人 鳥取県看護協会	会長	内田 眞澄	
福祉保健	鳥取市民健康づくり地区推進員連絡会議	会長	竹森 潔	
教育	鳥取県PTA協議会	会長	松岡 智也	
報道	(株)新日本海新聞社	事業局長	小谷 和之	欠席
県民	公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター	事務局長	毛利 葉	※中部総合事務所から出席
県民	とっとり県消費者の会	会長	福井 靖子	欠席
県民	日本労働組合総連合会鳥取県連合会	会長	本川 博孝	
行政	鳥取県市長会	会長	深沢 義彦	
行政	鳥取県町村会	副会長	小松 弘明	代理出席 副会長 白石 祐治 ※江府町役場から出席
有識者	国立大学法人 鳥取大学	教授	景山 誠二	※西部総合事務所から出席
有識者	国立大学法人 鳥取大学	教授	浦上 克哉	欠席
有識者	学校法人藤田学院 鳥取看護大学	教授	荒川 満枝	欠席